
少しずつでいい

syo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少しずつでいい

【Zコード】

Z0310BA

【作者名】

syo

【あらすじ】

平凡な中学生が急に一人暮らしすることになった。

幼馴染、超気が合う大親友、昔の知り合いの転校生などにさせられながら織りなすスクールライフ。

プロローグ（前書き）

初めて完全オリジナルに手を出しました。
おかしなところなど大量に出していくと思いますが
ぜひよろしくお願いします。

プロローグ

「やべ、遅くなつた…」「

俺は高城零斗。たかしろ れいとどこにでもいる普通の中学三年生だ。

まあ少し勉強ができる程度で顔普通、スポーツ普通の受験生。

今日は始業式、午前で終わつた後に新しいクラスで親睦会をして遅くなつていた。

「晩飯用意しといつて電話すればよかつたなあ…」

気持ち早めに自転車を漕ぐ、飯が食えなかつたら死活問題だ。

そんなことを思いながら我が家につくと、明かりは消えている。

「どうか出掛けんのかな?」

鍵を開けて家のドアを開くとなにか違和感がある…

何かよくわからないまま自分の部屋へ行き、見渡しても普段と変わらない。

しかしリビングに入った瞬間その違和感に気付いた。

「……え?え?」「

ない。まず弟と妹の勉強机。リビングの奥に見える父さんの書斎も見る限り空だ。

棚にあつた壺や、母さんの趣味でかけてあつた壁の絵も何もかも、ない。

「泥棒!…やばいぞこれは…」

すぐに電話しようとした電話器に近づくと、横のメモ帳に何か書いてあつた。

『ごめんね零斗、私たち急にアメリカに転勤しなきやいけなくて、帰つてくるの遅かつたから行つちゃつた。お金とかは栄ちゃんさかえちゃんのお母さんおやぢさんに任せたあるから、心配しないでいいよ』

「…………えええええええええ…!!!!!!??.??.??.?.

これが、俺の波乱に満ちた…いや、波乱しかない最後の中学生生活の始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0310ba/>

少しずつでいい

2011年12月31日19時48分発行